

滝沢市パブリックコメント実施結果報告書

令和6年1月17日

次の案件について、パブリックコメント実施によりいただいたご意見・ご要望の概要と、これに対する市の考え方を取りまとめましたので報告します。

政策等の名称	第2次滝沢市総合計画（案）
担当部署	企画総務部企画政策課
実施期間	令和5年1月15日から令和6年1月10日まで
意見等の件数	1件（1人から内容として5項目分の提出）
<意見等の概要>	<意見等に対する市の考え方>
<p>(1) 第1次滝沢市総合計画の評価やそれとの連続性、相違点などが不分明である。「第1次総合計画」との関連で「第2次総合計画」を提案したほうが、理解が進むように感じる。</p>	<p>滝沢市自治基本条例に掲げる市の将来像の実現を目指した取組のスタートとなった第1次滝沢市総合計画では、「幸福感を育む環境づくりの基盤構築」するための取組を平成27年度から令和4年度までの8年間進めてきました。</p> <p>市では、第1次滝沢市総合計画の取組を、設定した指標の数値、市民主体活動の状況、市域全体計画の進捗、地域づくりを進めるための体制の構築の進展などを踏まえ、「取組に一定の成果が見られ、将来像の実現に向けた進展が図られた」とものと評価しています。</p> <p>一方、第1次滝沢市総合計画の取組の課題を踏まえた第2次滝沢市総合計画の方向性として、「第1次滝沢市総合計画基本構想期間の取組により基盤が創られつつある幸福感を育む環境の中で、一人一人の価値観や多様性を認め、充実を図りながら、お互いを尊重し、ともに住みよい地域をつくること、誰もが幸福を実感できる活力に満ちた地域の実現に向けた取り組むべき方向性と考えられる」旨取りまとめたところであります。</p> <p>それらを含め、第2次滝沢市総合計画序章に記載のとおり、滝沢市自治基本条例に掲げる市の将来像をはじめとする理念の実現のため、第1次滝沢市総合計画に引き続き、第2次滝沢市総合計画においても、市民主体による地域づくりを推進し誰もが幸福を実感できる活力に満ちた地域を創出する取組を進めようとしているものです。</p> <p>第1次滝沢市総合計画との相違点としては、同じく第2次滝沢市総合計画序章に記載している市民や市を取り巻く環境の変化を受け、市自治基本条例前文に掲げる「思いやりのある社会の創造」という地域づくりの理念の実現のため、「やさしさ」をキーワードとした計画展開とすること、また、市民主体による地域づくりの一層の推進に資するよう、基本構想の取組方針として、「市民主体活動を後押しできる環境づくり」を取組方針に明記したことのほか、基本構想指標を新たに設定したこと、基本構想を踏まえて、新たな基本計画（地域別計画・市域全体計画）を策定したことなどが挙げられます。</p> <p>【参考：第1次滝沢市総合計画・後期基本計画総括評価書（市ホームページへ掲載しています。）】</p>

(2)「やさしさ」というキーワードありきの計画・説明と感じた。

第2次滝沢市総合計画では、基本構想を「滝沢市の将来像の実現に向けて総合的かつ計画的に地域づくりを進めるために、計画期間内で本市が目指すべき姿を定めるとともに、その実現に向けた取組の体系を示した地域社会計画」として位置付けており、さらに、具体の計画である「基本計画（4年間）」や「実行計画（毎年度策定）」を策定し、取組を進めることとしています。

第2次滝沢市総合計画基本構想では、これまでの取組の評価、環境変化への対応などの分析し、市のまちづくりの基本原則を掲げる滝沢市自治基本条例の規定などを検討し、市の将来像を定義付け、「やさしさに包まれた滝沢」を計画最終年度である令和13年度に目指す状態として掲げています。

この「やさしさ」をテーマに据えたまちづくりを市民と行政が一緒に進めるためには、市民の皆さんの理解が非常に重要であると考えております。そのため、基本構想においては、「やさしさ」をテーマとした理由や意図などの説明、また、基本計画部分においては、具体施策との関連性などについての説明を記載しているところであります。

(3)「やさしさ」に係る市民の声との記載があるが、懇談会では「やさしさ」に関して噛み合った意見はほとんど無かったと認識している。

第2次滝沢市総合計画の策定に当たり、令和5年5月から7月までの間に市政懇談会や「市長と話そう」を計34回、525人の市民の方と意見交換を行いました。

懇談会等では、総合計画の基本的な考え方の案や、「やさしさ」をテーマとしたまちづくりを進めることなどについて説明し、「やさしさを感じる時」や「やさしさに包まれたまちのイメージ」などを伺い、410件の意見を伺いました。

いただいた意見は、「やさしさに包まれた滝沢」の実現度を測るための指標の設定や、行政計画である市域全体計画の策定の参考としています。

「やさしさ」に関して噛み合った意見がほとんどなかったとのことですが、市政懇談会では、「やさしさ」に関する意見交換のほか、それぞれの地域課題についても懇談も行われました。

総合計画に対する意見交換を第1部に、地域課題に関する意見交換を第2部として進めましたが、結果として、地域課題に関する意見が多かった懇談会もありました。

今回の事例を踏まえ、今後、総合計画等、計画策定に当たっての市民との意見交換の実施に当たっては、実施方法などについて検討してまいります。

【参考：市民の皆さんからいただいた意見の一覧（市ホームページに掲載しています。）】

(4) パブリックコメントには、市民からのコメントを得られやすいような「計画」の説明が必要と感じた。

御意見ありがとうございます。次回計画策定時のパブリックコメント実施時への参考とさせていただきます。

(5) 計画のテーマの変更で、指標を変更しているが、第1次滝沢市総合計画との関連、行政の連続性との関連で、統計指標を恣意的に変更することに意義があるのか。

今回新たに基本構想指標として設定した「たきざわやさしき指標」は、やさしさをテーマとした市民との意見交換の中で、「やさしさに包まれたまち」のイメージの意見などを参考に、基本構想が目指す状態である「やさしに包まれた滝沢」の実現度を測るものとして設定したものです。

新たな基本構想を掲げたものであることから、それにあわせて測定指標を設定しておりますことについて、御理解いただきたいと考えております。

なお、市の政策展開の進捗度合を、市民意向等の主観的な要素の側面から捕捉するため、毎年度秋に「たきざわ幸福実感アンケート調査（正式名称：滝沢地域社会に関するアンケート調査）」を実施しています。

第2次滝沢市総合計画の展開に当たっても、アンケート調査項目に新規項目を若干数加えたほかは、第1次滝沢市総合計画時から大きな変更はしておりません。

同アンケート調査は、市民の皆さんのご協力により15年以上継続して実施しており、市といたしましても、調査によって蓄積したデータは貴重な行政資料として捉えておりますことから、今後も、連続性を担保しながら市民の意向の把握に努める予定としております。

*欄が不足する場合は、適宜追加してください。